

令和4年10月1日の人口推計について

資料1

R4年の推計：1,106,294人（自然増減△8,848（出生 7,037、死亡△15,885）、社会増減1,393）

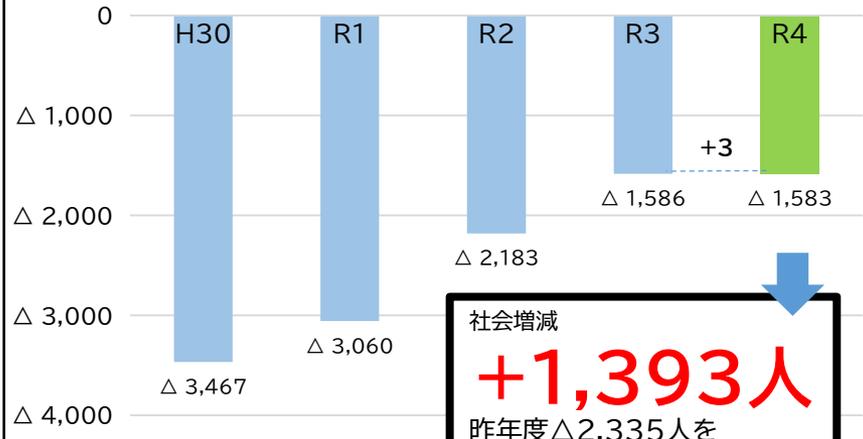
※R3→R4の増減数 △7,455人（前年の増減率と比べて0.23%改善）

出典：大分県人口推計

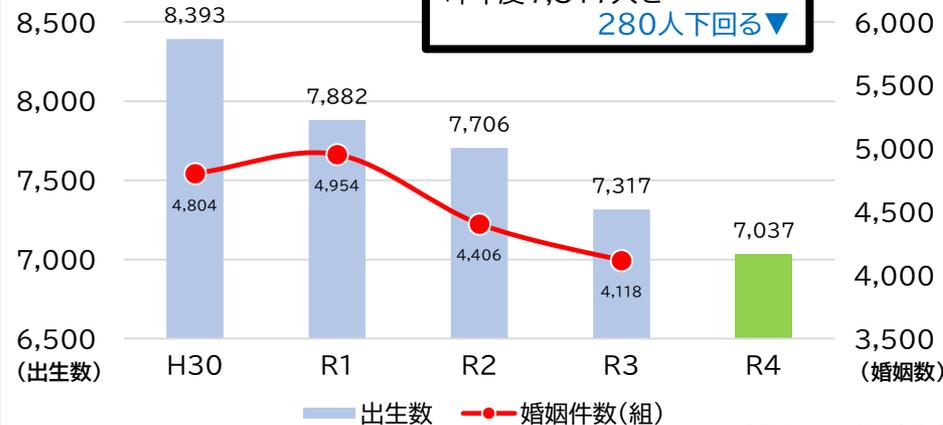
【人口の増減要因】

自然動態	社会動態
減少要因	増加要因
<ul style="list-style-type: none"> ・婚姻件数の減 R3-R2 △288組(△6.6%) ・主な出産年代(20~39歳)の女性人口の減 R3-R2 △2,541人(△2.5%) ・死亡者の増 コロナ禍による活動量低下が影響している可能性 75歳以上死亡者 R3-R2 +534人(4.6%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の増 R4.3から入国制限の緩和 学生 1,865人程度 技能実習生 2,000人程度

日本人の社会増減



出生数と婚姻数の推移



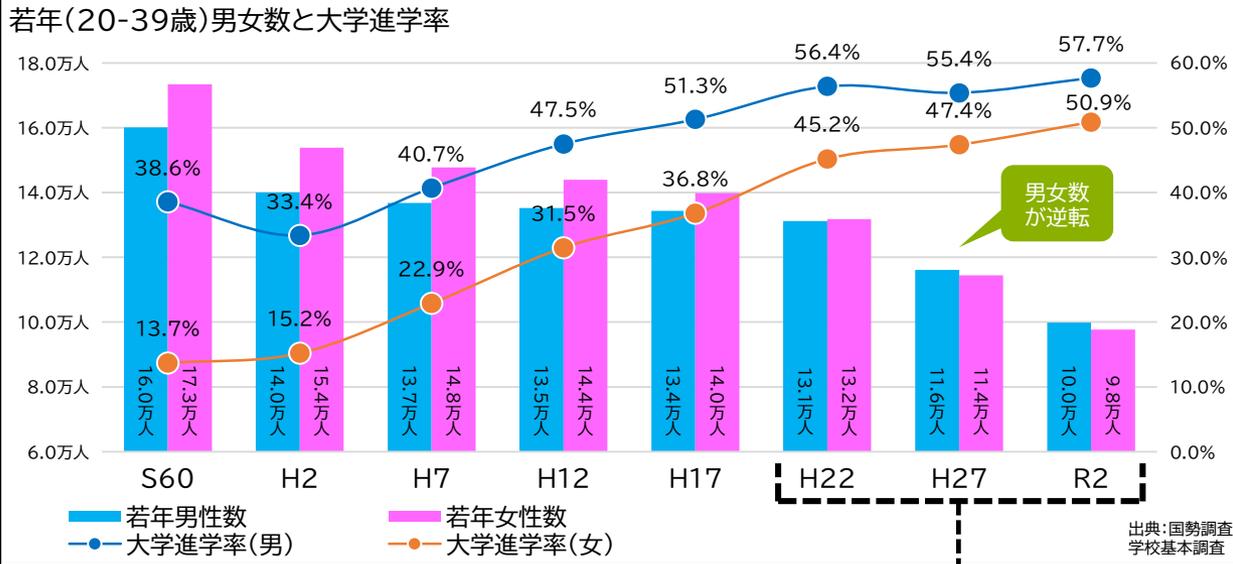
外国人の社会増減



婚姻件数出典：大分県人口動態統計

大分県の人口動態の推移

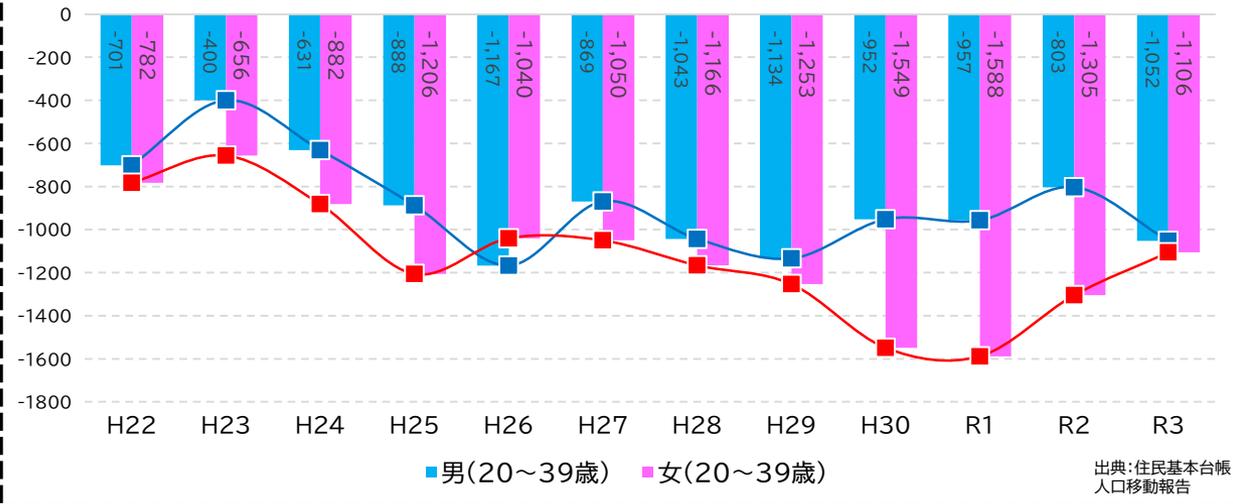
《若年男女数と大学進学率、転出超過数の推移》



【傾向、分析】

- ・ H22までは若年男性数が若年女性数を上回っていたが、H27以降逆転し、女性の減少が進む。
女性(S60-R2)△43.4%
男性(S60-R2)△37.5%
- ・ 若年女性減少の主な理由として、大学進学率の向上等により県外に職を求める機会が増え、県外転出が拡大していることが考えられる。
(福岡・沖縄を除く九州各県も同様の傾向)

若年男女(20-39歳)の転出超過数



- ・ R2からR3にかけては県外転出が抑制されているが、これは新型コロナウイルスの影響によるものと推測され、コロナ収束後は、若年女性の県外転出が再び拡大することが懸念される。
- ・ 雇用の場を創出する上で、特に若年女性向けの雇用対策が喫緊の課題。